

JACET Kansai Newsletter

No. 71 May 16, 2015

一般社団法人大学英語教育学会関西支部 (JACET Kansai Chapter)

支部長: 小栗 裕子 (滋賀県立大学) (Chapter President: Yuko Oguri, The University of Shiga Prefecture)

事務局: 〒606-0847 京都市左京区下鴨南野々神町1番地 京都ノートルダム女子大学 東郷多津研究室内

(Chapter Office: c/o Tazu Togo, Kyoto Notre Dame University)

E-mail: jacetkansaichapter@gmail.com URL: <http://www.jacet-kansai.org/>

ご挨拶

小栗裕子 (支部長)

新緑の美しい季節となりましたが、会員のみなさまにおかれましては、いかがお過ごしでしょうか。4月より野口ジュディー支部長の後を引き継ぎました小栗です。先生には5年という長期に渡り、JACET関西支部の運営に多大なご尽力をいただきました。心よりお礼申し上げます。また今回退任された副支部長の田地野彰先生はじめ幹事の先生方や研究企画委員のみなさまにも深く感謝申し上げます。

新幹事は総務担当の東郷多津先生と藤澤良行先生、財務の村上裕美先生と増田将伸先生、そして広報の吉村征洋先生と表谷純子先生の6名が務められます。研究企画委員は20名の構成で、春秋2回の支部大会のすべての企画から運営まで加藤雅之委員長を中心に行います。そしてJACET Kansai Journalの編集は新田香織先生を編集長として3名の編集委員と査読委員の方々の協力を得て年に1度刊行します。また、関西支部には8つの研究会(文学教育・学習英文法・ESP・海外の外国語教育・教材開発・リスニング・リーディング・ライティング指導)が、それぞれ活発に研究活動を行っており(詳細は支部HPをご覧ください)、年3回の講演会のうち2回はこれらの研究会が輪番でその研究成果を発表しています。次のページにはイベント・カレンダーが掲載されていますので、予定表に入れておいていただければ幸いです。最初にみなさまにお会いできるのは6月27日(土)の春季大会ですが、ぜひ小栗に声をかけてください。もちろん懇親会にも出席いたします。

さて先日まだ入学したばかりの学生から「先生、どうして6年も英語を勉強してきたのにしゃべれないのですか」という質問を受けました。このクラスは新入生用の「プレゼン」のような授業内容ですが、予期せぬ質問に「どうしてでしょうね。使う機会があまりなかったからだと思うけれど」と答えました。質問をした学生は納得したかどうかはわかりませんが、受講生は全員大学で提供されているいざれかの言語の習得を目指していて、当然英語に興味があり、動機づけも高いことが予想されます。その学生が発した問い合わせなのです。「しゃべれる」とはどの程度なのか定義する

必要があるのかもしれません、意外な質問に答えに窮してしまいました。

この質問には2つの視点からの回答が考えられます。1つは中学校・高等学校での英語教育からの視点ですが、これはまたの機会に譲ります。2つ目は大学からのものです。高等学校の新学習指導要領での目標は「コミュニケーション能力を養うこと」であり、4技能を統合的に活用することを強調しています。今年度入学をした学生達はまだ新指導要領ではありませんが、この習得したコミュニケーション能力をいったいこれからどのようにして大学入試で評価をすればいいのでしょうか。

大変ではありますが、一番有効なのは入試にスピーキングテストを課すことではないでしょうか。京都工芸繊維大学では、羽藤先生のグループがまずは大学院の、そして将来的には学部の入試への導入を目指してコンピュータベース(CBT)のスピーキングテストを採点システムも含めて開発されています。実現するにはもう少し準備が必要だということですが、待ち遠しく思います。

次に考えられるのはセンター試験のリスニングテストの比重を高くすることです。現在「筆記」の配点は200点でリスニングは50点(4対1)ですが、白井(2012)によれば50%ぐらいにすべきだと述べられていますし、リスニングテストの影響力を調査した平井他(2013)も同じような結論(3対1にすべき)に至っています。リスニングテストには4つの大問があり、その中の第2問は「対話に続く応答として適切なものを選択する」という実際会話を再現しています。もちろん聴いて正しい応答を選ぶのみで完全なコミュニケーションとは言えませんが、それに近いことを試験していることは確かです。

そして、これが一番大切なことなのかもしれません、それぞれの大学で高校の新指導要領に沿った入試問題を作成することではないでしょうか。平成28年度の受験生はまさにその1期生にあたります。各大学での新指導要領を見据えた問題作りが望まれます。

■参考文献

- 白井恭弘 (2012) 『英語教師のための第二言語習得論入門』大修館
 平井明代・藤田亮子・大木俊英 (2013) 「センターリスニングがもたらすリスニング学習意欲への影響：大学種別・入試形態・専攻ごとの分析に基づく考察」*JACET Journal* 57, 59-81.

■今年度のイベント・カレンダー■

現時点での今年度(2015度)に予定されているJACET関西支部の活動です。是非ご予定ください。

日時 (Date)	行事・概要 (Event)
2015/6/27	2015年度関西支部春季大会@大阪教育大学(天王寺キャンパス) JACET Kansai Chapter Spring Conference, Osaka Kyoiku University Tennoji Campus
2015/7/11	第1回支部講演会・支部役員会@神戸大学 Kansai Chapter 1 st Lecture Meeting / Chapter Board Meeting, Kobe University
2015/9/30	『JACET Kansai Journal (JACET関西支部紀要)』18号投稿原稿締切 The deadline to submit a paper for <i>JACET Kansai Journal</i> No. 18
2015/10/17	第2回支部講演会・支部役員会@同志社大学 Kansai Chapter 2 nd Lecture Meeting / Chapter Board Meeting, Doshisha University
2015/11/28	2015年度関西支部秋季大会・関西支部総会@神戸学院大学 ポートアイランドキャンパス JACET Kansai Chapter Autumn Conference / Chapter Annual Meeting, Kobe Gakuin University, Port Island Campus
2016/3/5	第3回支部講演会・支部役員会@関西学院大学大阪梅田キャンパス Kansai Chapter 3 rd Lecture Meeting / Chapter Board Meeting, Kwansei Gakuin University, Osaka Umeda Campus
2016/3/31	<i>JACET Kansai Journal</i> 『JACET関西紀要』18号刊行 Publication of <i>JACET Kansai Journal</i> No. 18

なお、上記イベントは、諸事情により、断りなく日程・場所・内容等に変更が生じる場合がございます。最新情報はJACET関西支部のホームページ(<http://www.jacet-kansai.org/>)にて随時更新しておりますので、ご確認ください。

Check the Kansai Chapter website for specific details: <http://www.jacet-kansai.org/>

■2015年度JACET関西支部春季大会■

来る6月27日(土)、2015年度春季大会が、大阪教育大学の天王寺キャンパスで開催されます。研究最前線シリーズは昨年秋季のリスニングに引き続き、今回はリーディング研究最前線をお送りします。リーディング研究会の川崎眞理子先生(高崎経済大学)、野呂忠司先生、中野陽子先生の3名が、視線計測や多読、レベル別指導法など、白熱した討論を展開します。

「これ、明日の授業で使えそう」と毎回好評の実践型ワークショップは「多読」を扱います。講師は『英語多読・多聴指導マニュアル』などおなじみの高瀬敦子先生です。シンポジウムと連動して、今回はリーディングが熱く語られます。

授業外の活動やイベントなど、各大学で展開されているユニークな取り組みを紹介するFD型シンポジウムは、「うちの取り組みは単なる語学研修とは一味違います」ということで、フィンランドでの教員研修(中田葉月先生)、模擬国連(Craig Smith先生)、海外キャンパスの活用(辻和成先生)などの実例を紹介させていただきます。

その他、多数の研究発表・実践報告の発表も行われます。初夏の一日、アベノハルカスと通天閣に囲まれた大阪ミナミのど真ん中で、世俗の喧騒と離れて、静かで意義深い交流のひとときを共有できればと考えています。会員のみなさまのご参加を心よりお待ちしています。なお、詳しくは支部ホームページをご参照ください。

日時: 2015年6月27日(土) 10:00~17:10

場所: 大阪教育大学(天王寺キャンパス)

ワークショップ: 「教室で如何に効果的な多読指導を行うか」

講師: 高瀬敦子先生(関西大学他非常勤)

シンポジウム1: 「海外研修プログラムを活用したグローバル人材育成の試み」

講師: 中田葉月先生(大阪教育大学)

Craig Smith先生(京都外国语大学)

辻和成先生(武庫川女子大学)

シンポジウム 2：「リーディング研究最前線」
講師：川崎 真理子先生（高崎経済大学他非常勤）
野呂 忠司先生（愛知学院大学）
中野 陽子先生（関西学院大学）

参加費：JACET 会員は無料、非会員は 1000 円
懇親会：17:20～19:00（大学学生食堂）会費 3,000
円（事前）／4,000 円（当日）

JACET Kansai Chapter Spring Conference

We are very happy to announce JACET Kansai Chapter 2015 Spring Conference will be held at Osaka Kyoiku University, Tennoji Campus on Saturday, June 27. (<http://osaka-kyoiku.ac.jp/en/Traffic.html>) with the following three invited features:

- Workshop “How to Implement and Practice Extensive Reading in Class” by Prof. Atsuko Takase (Part-time Instructor, Kansai University and others)
- Symposium (1) “Fostering Global Citizens through Study Abroad Programs” by Ms Hazuki Nakata (Osaka Kyoiku University), Prof. Kazushige Tsuji (Mukogawa Women’s University) and Prof. Craig Smith (Kyoto University of Foreign Studies)
- Symposium (2) “State of the Art in L2 English Reading Studies” by Prof. Yoko Nakano (Kwansei Gakuin University), Prof. Tadashi Noro (Aichi Gakuin University) and Prof. Mariko Kawasaki (Takasaki City University of Economics)

There will also be 13 paper presentations. We look forward to seeing you (again) at the conference. For the details, please refer to our website:
<http://www.jacet-kansai.org/>

The participation fee is free for JACET members while 1,000 yen will be needed for nonmembers.

The reception party will be held at the Student Lounge from 17:20 to 19:00. Participation fee is 3,000 yen if reserved in advance by email by June 13 or 4,000 yen if joined on site.

■ 2014 度第 3 回支部講演会の報告 ■

2014 年度の第 3 回支部講演会が 2015 年 3 月 7 日（土）に関西学院大学大阪梅田キャンパスで開催されました。講演には 40 名の参加者がありました。

講師：教材開発研究会
幸重 美津子先生（京都外国語大学）
赤尾 美和先生（近畿大学）
尾鍋 智子先生（大阪大学）

ゲストスピーカー：
林 桂子先生（広島女学院大）
演題：「多重知能（MI）理論を応用したリメディアル英語教材開発」
Application of Multiple Intelligences to Remedial English Materials

講演要旨：認知心理学者ハワード・ガードナー（Howard Gardner）の提唱する（MI 理論）は、人には多重知能が存在するとして、スタンダードテスト偏重主義に疑問を呈してきたことで知られている。IQ テストで測れない知能にも着目する MI 理論を第 2 言語習得に活かす指導法は世界的に検討されているが、当研究会は学習者の MI を日本の EFL 教育、特にリメディアル英語教育に応用したいと考え、有志グループによる研究を行ってきた。その結果、JACET 教材開発研究会は個々の MI に焦点をあて「学習者が楽しみながら基礎語学力を発展させる」ことに留意した『English Locomotion—参加して学ぶ総合英語』（成美堂、2015）を出版した。本講演会では、まず学習者の MI を外国語としての英語指導に生かすべく 8 つの知能を用いた応用研究を行い、著書や論文を発表してこられた林桂子先生に MI 理論の理念とその可能性について紹介していただく。その後、当研究会が出版したリメディアル教材への応用方法と枠組みを提示、さらに具体的な教材案と実践例を提案する。英語教育の多角性を具体化させる試みとして、MI 理論の応用は教材開発に限りない可能性を秘めている。

The 3rd Lecture Meeting of the 2014 academic year was held on March 7 at Kwansei Gakuin University, Osaka Umeda Campus, with 40 participants.

Abstract: Howard Gardner, the world-renowned cognitive-psychologist, published *Frames of Mind: The Theory of Multiple Intelligence* in 1983. Opposed to overemphasis on a single kind of intelligence measured by standardized tests, this book claimed a new insight into human intelligence, articulating at least seven criteria for different kinds of intelligence. Sympathizing with this theory, we in the Material Design and Development SIG have applied the principles of MI to developing an EFL material for remedial education. The result is our recent publication of *English Locomotion* (2015), with which learners can feel motivated and enjoy developing English communication skills, through the active use of their various types of intelligence. The present lecture will consider the possibilities of practical application of MI in EFL material design, introducing the doctrine first, then the framework, and finally examples from the textbook published. Material design and the development of the Japanese EFL education could be

infinitely enlightened by the theory of Multiple Intelligences.

■2015年度第1回支部講演会のお知らせ■

JACET 関西支部では、今年度も3回の支部講演会を計画しております。7月11日に開催される第1回支部講演会は、下記の通り招聘講師による講演を予定しています。皆様のご参加をお待ちしております。

日時：2015年7月11日（土）15:30～17:00

場所：神戸大学 鶴甲第1キャンパス

講師：ジェイ クラパーキ先生（京都外国語大学）

　　アンガス マグレガー先生（京都外大西高等学校）

　　塩見 佳代子先生（立命館大学）

演題：TEDxKyoto で繋ぐコミュニティと TED トーグの革新的なアイデアを活用した英語授業

講演要旨：“Ideas Worth Spreading”の精神のもと、TED(Technology, Entertainment, and Design)イベントが毎年北米で開催される。TEDxは独立した組織であるが、TEDスタイルを踏襲しコミュニティを繋げる活動として、近年世界各地で開催されている。TEDxでは、登壇者の話やパフォーマンスおよびTED Talksの動画を観ながら、多様なアイデアに触れ、異業種の人々と交流を行いながら知見を深めることができる。TEDxKyotoは参加者が約800名と、日本で最大級のTEDxイベントであるが、全てボランティアで運営している。約40名のコアメンバーに加え、イベント当日は社会人、大学生、高校生、留学生など総勢約200名のボランティアがイベントに携わる。本講演では、TEDとTEDxKyotoイベントについて特徴を述べると同時に、スピーカー選のプロセスやコーチング、イベント運営に関して説明を行なう。さらに、TED Talksのビデオを使用した教材開発や授業実践、およびプロジェクト型学習(PBL)事例についても報告し、TEDイベントの英語教育現場における活用方法を紹介していく。

参加費：JACET会員は無料、非会員は500円

事前申込：不要

使用言語：英語（塩見佳代子先生、及び質疑応答時は日本語・英語）

支部HPに詳細を掲載いたしますので、ご覧ください。

The 1st Lecture Meeting of the 2015 academic year

- Date: July 11, 2015
- Venue: Kobe University, Kobe University, Rokkodai District (Kokusai-Bunka Gakubu Campus, School of Languages and Communication, Building #13)
(<http://www.kobe-u.ac.jp/en/access/rokko/campus.html>)
- Speaker: Prof. Jay Klaphake, J.D. (Kyoto University of Foreign Studies), Mr. Angus McGregor (Kyoto Gaidai Nishi High School), Prof. Kayoko Shiomi (Ritsumeikan University)
- Title: Bringing Innovation to the Community and Classroom through TED Talks and TEDxKyoto
- Abstract: In the spirit of “ideas worth spreading,” TEDx is a program of local, self-organized events that bring people together to engage with each other and share a TED-like experience in their own community. At a TEDx event, videos of TED Talks and live speakers combine to spark deep discussion and connection. These local, self-organized events are branded TEDx, where x = independently organized TED event. TEDxKyoto, which began in 2012, has grown into the largest TEDx event in Japan with 800 participants and will hold its fourth annual event on November 8th. TEDxKyoto is managed entirely by an unpaid, core team of 40 volunteer organizers from the Kyoto area community who, on the day of the event, organize over 200 volunteers including students from several area high schools and universities as well as international exchange students. The main event, which is held on the campus of Kyoto University of Foreign Studies, serves as a catalyst that invokes deep thought, sparks human connections, engages the community, and leads to increased opportunities to bring new innovations to life. The three presenters, all members of the TEDxKyoto organizing core team, are teachers of EFL and engage in content-based teaching in high school and university. They will share with the audience about TED, TEDxKyoto and offer some ideas for using TED talks as a learning platform in the English classroom, including project-based learning.

- Fee: JACET member, free; nonmember, ¥500.

No need to preregister.

- Main language for presentation: English (English & Japanese in Prof. Shiomi's & the Q&A session)

Details available at the JACET Kansai Chapter website (<http://www.jacet-kansai.org>).

■JACET第54回国際大会のお知らせ■

2015年8月29日（土）から31日（月）まで鹿児

島大学 郡元キャンパスにて JACET 第 54 回国際大会が開催されます。皆様のご参加をお待ちしております。

大会テーマ：グローバル時代の異文化間コミュニケーション能力と英語教育

開催日程：8月 29 日（土）～8月 31 日（月）

開催場所：鹿児島大学 郡元キャンパス

要旨：大学英語教育学会第 54 回（2015 年度）国際大会の目的は、現代のグローバル化された世界における異文化間コミュニケーション能力とそれを支える英語教育の有効な役割と社会的使命に光を当てることである。

海を越え、国境を越えてグローバル化された社会の拡大に伴い、英語は今日の世界においてより必要不可欠な世界共通語となり、それに伴い、よりバランスのとれた英語教育を目指した熱意ある教育動向や教育改革を誘発していると言える。まさしくそこに求められているものは、世界を取り巻く多様な学際性と様々な社会環境を考察することが求められているのである。この新しい方向に鑑みて、政治、経済に導かれた地政学的な環境が、現代のグローバル化促進の中心的役割を果たしていることを我々は認識する必要がある。この現実を認識する一方で、我々は異文化理解の中心的要素を理解する大切さを決して過小評価してはならないのである。

歴史が示すように、異文化の格差を理解するためには、人種、宗教、イデオロギーの諸問題から、食物、衣服、音楽に関わる諸問題まで、広範な社会文化、社会言語学レベルに注目すべきことが求められている。もう一つの関心領域は、個々の民族や地方において独自に育まれ大切にされてきた様々な伝達様式に存在している。このことは、より総合的、幅広い観点から言語教育や言語学習を見ていく必要を意味している。

多面的視点から英語教授法と英語運用能力を考察していくことは、世界の主たる潮流となつた。従つて、上述のようなより確実で焦点化された方法で異文化理解の問題を再考して文化間の格差を解決することは極めて生産的なことであろう。これは、物質的豊かさではなく、世界の人々の共存共栄のためである。このゴールは、永続的な人類の絆と深い異文化理解の確立により、具現化する必要がある。このことを念頭に置いて、バランスのとれた方法で、つまり拡大し続けるグローバル化と何世紀にも及ぶ異文化遺産の継承に目を向けながら、英語教育と異文化間コミュニケーション能力の獲得が実働化されねばならない。我々は、そのような新しい時代を迎えているのである。

-Theme: Intercultural Communicative Competence and English Language Education in a Globalized World

- Date: August 29 (Sat) – August 31 (Mon), 2015

- Venue: Kagoshima University, Korimoto Campus

- Abstract: The objective of the JACET 54th (2015) International Convention lies in highlighting the potent roles and social missions of cross-cultural communicative competence and supportive English language education in a contemporary globalized world.

With the expansion of globalized societies across oceans and boundaries, English has become a more indispensable lingua franca in today's world, thereby triggering more enthusiastic educational trends and pedagogical reforms aimed at how to teach the English language in a well-balanced manner. Indeed, it is important to consider multiple disciplines and various social circumstances around the world. Noting this new direction, we need to acknowledge that politics- and economy-led geopolitical circumstances are playing a pivotal role in promoting contemporary globalization. While recognizing this reality, we should never underestimate the importance of understanding the core essence of cross-cultural communication.

As history witnesses, understanding cultural gaps requires us to look into far-reaching sociocultural and sociolinguistic levels, ranging from issues on race, religion, and ideology to the ones related to food, clothing, and music. Another area of interest lies in various communication styles that have been uniquely fostered and cherished in individual ethnic groups and local regions. This implies the necessity of our looking into language education and language learning from a more holistic and wider viewpoint.

Considering English teaching methods and language capability from multi-faceted standpoints has become a major trend around the world. Hence, it would be highly productive to reconsider the issue of how to understand and resolve cultural gaps in a more authentic and focused way as noted above. This is not because of material affluence, but because of coexistence and mutual prosperity among global peoples. This goal must be exemplified by establishing long-lasting human bonds and deeper levels of cross-cultural understanding. With this notion in mind, we are greeting a new era, where English language education and intercultural communicative competence should be implemented and then developed in a well-balanced manner: focusing on expanding global trends, and sustaining centuries-long cross-cultural heritages.

The JACET 54th International Convention

■ 紀要編集委員会より ■

『JACET 関西紀要』第 17 号を 3 月末に会員の皆様に送付致しました。今回は 3 本の投稿論文、5 本の研究ノートに加えて 1 本の実践報告を掲載しております。短い査読期間で何度も審査をしてくださった査読委員の先生方には、紀要編集委員一同心よりお礼申し上げます。

第 18 号でも招待論文、一般投稿論文の他に支部大会や全国大会で発表された内容に基づく論文を募集します。JACET 関西支部会員の皆様におかれましては、研究・実践の成果を支部紀要で報告していただけるよう、投稿規定（<http://www.jacet-kansai.org/file/toukoukitei.pdf>）をご確認の上、次号紀要にも奮ってご応募ください。

The JACET Kansai Journal (JKJ) Editorial Committee announces the publication of JKJ No.17, which was sent to members at the end of March. The journal contains three research articles, five research notes and one application report. The Editorial Committee expresses its sincere gratitude to the reviewers who devoted much time and effort to the editorial process.

To submit a paper for the next issue, JKJ No. 18, check the guidelines for details on the submission procedures and requirements available at the end of JKJ No. 17 or at the following URL:http://www.jacet-kansai.org/file/toukoukitei_e.pdf.

■事務局より ■

Messages from Kansai Chapter

事務局が交代しました。支部役員の詳細については、HP の一覧でご確認いただけます。

As of April, the JACET Kansai Chapter office has moved. For details, please visit our website: <http://www.jacet-kansai.org/index.html>.

4 月 1 日より、支部事務局が京都ノートルダム女子大学東郷研究室に移りました。今後 1 年間、関西支部の仕事を担当させていただきます。連絡先は本 NL71 号の冒頭をご覧ください。どうぞよろしくお願い申し上げます。

新執行部は、小栗支部長、新田副支部長を始め、以下、総務幹事を東郷・藤澤、財務を村上・増田、広報・紀要を吉村、表谷が務めます。2013 年 4 月に JACET の法人格が移行して初めての幹事交代となり、新支部長のもと、全メンバーが新任となりますため、支部長に 1 年間の任期で指名いただきましたことを役員会でお認めいただいた、照井、里井、仁科支部長補佐の援護を

得ながら、関西支部活動の活性化に向けて、この体制で一意専心力を合わせて職務を果たしてまいりたいと存じます。

新たに選出された社員の先生方のほか、役員体制にも一部変更がございます。

研究企画委員長は加藤雅之先生（神戸大学）、研究企画副委員長は石川慎一郎先生（神戸大学）と中西のりこ先生（神戸学院大学）が、今年度もお務めくださいます（50 音順）（再任：任期 1 年間）。また、新たに 7 名の先生方が研究企画委員をお務めくださいます（任期 2 年間）。関西支部大会がより一層有意義で魅力あるものになるようご尽力くださいます。

以上のような体制で進めてまいります。皆さまのご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2014 年度でご退任なさった先生方から、以下のメッセージをいただきました。併せてご紹介いたします。これまで関西支部のためにご尽力いただきました、誠にありがとうございました。この場をお借りして、お礼申し上げます。

退任のご挨拶

Messages from Kansai Chapter officers completing their term of office

◎ 旧副支部長：田地野彰先生（京都大学）

2012 年から副支部長を務めさせていただきました。その間に、国際大会組織支部委員長として、第 52 回国際大会を京都で開催させていただいたことを、昨日のことのように覚えております。大会の運営にあたっては、野口支部長をはじめ役員、組織委員会委員など、多くの方々にご協力いただきました。日本を代表する英語教育関連諸学会（七団体）の代表者が一堂に会し、これから英語教育について意見交換を行い、その結果「京都アピール」を提言できたのも支部のみなさまのご尽力の賜物だと感謝しております。今後も関西支部が日本の英語教育を牽引していくことを期待して、お礼の言葉とさせていただきます。

◎ 旧支部幹事：小山敏子先生（大阪大谷大学）

研究企画委員を 2 年間務めさせていただいた後、2013 年度からは事務局総務幹事として JACET 関西支部運営に関わらせていただきました。あまりお役に立てなかつたことが申し訳なく、けれども多くの先生方とご一緒させていただきましたことを、大変幸せに思っております。たくさん勉強させていただけましたことに心からお礼申しあげます。JACET の益々のご発展を祈念しつつ。

◎ 旧支部幹事：鎌倉義士先生（愛知大学）

2 年間広報担当としてお世話になりました。愛知大学 鎌倉と申します。広報の仕事を通して、貴重な経

験をさせて頂き感謝申し上げます。関西は私にとって憧れの地でした。学生時代に関西の大学への進学を考えましたが、縁がなく地元名古屋の大学に進学しました。研究者になってからも、英語教育・英語学・言語学・辞書学などの分野で活躍する先生方がいる関西支部は、魅力的な場でありました。この2年、関西支部にて多くの先生方にお世話になり、ますます関西が好きになりました。これからは支部会員としてJACET関西支部の活動に協力していきたいと思います。ありがとうございました。

◎ 旧支部幹事：辻和成先生（武庫川女子大学）

この2年間、財務幹事として大変貴重な経験をさせていただきました。JACET関西支部の役員の先生々の前向きで大変熱心な活動に触れ、改めて関西支部の力強さを感じました。長年支部長を務められた野口先生をはじめ、同時期に執行部の仕事をご一緒させていただいた皆様に心より御礼を申し上げます。また、新しい支部長の小栗先生と執行部の皆様にはどうぞよろしくお願ひ申し上げます。関西支部の益々のご発展をお祈りいたします。

◎ 旧研究企画委員：長谷尚弥先生（関西学院大学）

これまで2期4年間にわたり研究企画委員を務めさせていただきました。当時選んでいただいた方々には申し訳ないほど貢献が少なく、申し訳なく反省しております。これからは一員として、研究大会や支部大会、支部講演会などに積極的に参加させていただくなどして、少しでもJACET関西支部を盛り上げる上で貢献できればと考えております。どうぞ引き続きご指導のほどをよろしくお願ひいたします。

◎ 旧研究企画委員：スミス朋子先生（大阪薬科大学）

2011年度より研究企画委員を2期務めさせて頂きました。英語教育の研究を始めてまだ日も浅く、十分にお役に立てなかつたことの方が多いですが、4年間、委員長の横川先生、氏木先生、加藤先生の元で多くの先生方と交流させていただき、様々なことを学ぶことができ本当に感謝しております。特に、2014年の春は大会の会場校として開催できること、楽しい思い出で一杯です。お世話になりました先生方に御礼申し上げますとともに、関西支部の今後の発展を心よりお祈り申し上げます。

◎ 旧研究企画委員：竹蓋順子先生（大阪大学）

One's philosophy is not best expressed in words; it is expressed in the choices one makes. ... And, the choices we make are ultimately our own responsibility. 米国の大統領フランクリン・ルーズベルトの夫人、エレノア・ルーズベルトの言葉。関西に来て間もなく

JACET関西支部の幹事を引き受ける選択をしたことは私の人生最良の選択の一つでした。皆様に心より御礼申し上げます。

◎ 旧研究企画委員：山西博之先生（関西大学）

2009年度・2010年度の事務局広報・紀要幹事に引き続き、2011年度から2014年度まで2期4年研究企画委員としてお世話になりました。その間、横川先生、氏木先生、加藤先生というそれぞれ個性的な3名の研究企画委員長のもと、研究企画委員という学会の要の役職で、多くの先生方とともに学会運営に貢献できたりを嬉しく思います。会員としての研究活動を、事務局・研究企画委員会の先生方が支えていることを知ることができ6年間でした。得がたい機会を与えてくださったこと、心より感謝申し上げます。

◎ 旧研究企画委員：吉田佳代先生（元甲南大学）

2008年にJACETの会員となり、まだ学会組織についてほとんど知識がない状態で、2012年より関西支部の研究企画委員をさせていただきました。私の能力で貢献できることには限りがあり、学会での当日受付等の役割をこなす程度のお仕事しかできませんでしたが、素晴らしい委員の先生方と一緒に活動できましたことは非常に刺激となり、貴重な経験となりました。今回、家庭の事情で2期目の任期途中に退任することとなり、ご迷惑をおかけして申し訳ございませんでした。今後もJACETのさらなるご発展と皆様の一層のご活躍を異国の方よりお祈りしております。

■ 会員情報の変更 ■

支部会員向けの各種案内の配達やメーリング・リストによる情報の配信に使用いたしますので、会員情報（住所、メールアドレス、所属、電話番号など）が変わられた方は、必ずご連絡ください。なお、関西支部では名簿の作成・管理は行っておりません。会員情報の変更のご連絡は、本部事務局 (jacet@zb3.so-net.ne.jp)までお願いいたします。

Please immediately report any changes in your address, affiliation, e-mail address, telephone numbers and other information to **JACET headquarters** (jacet@zb3.so-net.ne.jp)